

TOLICものづくり連携コンソーシアム第2回カンファレンス

日時:2016年8月9日(火) 14:00~17:30

場所:ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング 11F 「ギャラクシー」

主催:協同組合産業社会研究会経営者革新会議(IMS)

後援:第6回TOLICカンファレンス、盛岡市、岩手県工業技術センター、東北経済産業局、北東北ナノメディカルクラスター研究会、いわて産業振興センター、INSいわてコーディネート研究会

◆テーマ

「近未来のライフサイエンスと岩手・東北のものづくり技術」

◆講演 14:00-17:30

「近未来のデジタル医療」 みずほ証券株式会社 戦略調査部
業務開発室 室長 小南 欽一郎氏

過去に行われた未来予測を紐解き検証しながら、今後、近未来に起き得るデジタル医療およびヘルステックに焦点を当てる。本会では、病気になってから治療する現在の医療スタイルから、未病段階の対応、予防の重要性が増してくる未来の産業について議論したい。

「パーソナルヘルスケアからデジタルメディシンへのアプローチ」
セルスペクト株式会社 代表取締役 岩渕 拓也氏

万歩計、血圧計に代表される運動評価、生理機能評価は、一個人のみの健康の指標としてにわかに利用されてきたが、スマートフォン、モバイル端末、モバイルウェアブル検査センサーにより、これらの情報がクラウド上で繋がりはじめている。一方、健康管理に重要な情報となる生化学的評価、病理学的評価は、検体採取の必要性、侵襲性、プレパレーションの困難さから、そのデジタルヘルスケアは未だに構想段階に留まっている。さて、これらが解決されることは、予防医療、経過診断医療が、いつでも、どこでも得られる点で、ヘルスケアの域を超え、次世代の医療の一形態と成り得ると考えられる。本会では、前記課題を解決させ、ヘルスケアからデジタルメディシンへ挑戦するためのブレークスルーとなる医工融合アイテムについて議論する。



「ロボットと人工知能で拓くサイエンスの未来」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター

研究センター長 夏目 徹氏

少子化、バイオハザード、ミスコンダクト等々、ライフサイエンスを取り巻く状況は悪化の一途をたどる。本講演では、これらの問題を全て解決し、研究者の個人生産性を飛躍的に向上させる「汎用ヒト型ロボット技術」について講演する。ロボット化の目的は、単に人間が行ってきた作業を自動化することではない。ロボットの真の価値は、熟練者の技術を可視化・最適化することにある。最適化された技術が、再現共有されることによりロボットの価値は最大化する。近い将来、ロボットと人工知能が研究者を労働から解放する未来について議論する。



「岩手のライフサイエンス機器の発展を目指して！」

株式会社アイカムス・ラボ 代表取締役 片野 圭二氏

当社では現在、多くのライフサイエンス機器開発と製品化を行っている。一般病と、在宅用、救命救急用の輸液・点滴装置、マイクロシリンジやマイクロポンプによる小型・精密診断機器、ピペット、移植・投与装置、細胞培養の再生医療機器等、岩手・東北の精密加工技術や産学官連携を活用して開発している。地域が独自のライフサイエンス産業をつくることによる地域の未来のためのイノベーションについて考える。

◆懇親会 18:00~20:30 ホテル東日本盛岡ビヤホール 会費4,500円

※8/1締切 ただし定員40名になり次第締め切らせていただきます